

南海トラフ地震への備え

■ 南海トラフ地震が及ぼす甚大な被害

南海トラフ地震が発生すると、高知県のほぼ全域が震度6弱以上の強い揺れに襲われ、1m以上の津波が最短3分で到達します。特に、土佐清水市と黒潮町では、全国最大となる34mの津波の襲来が想定されています。

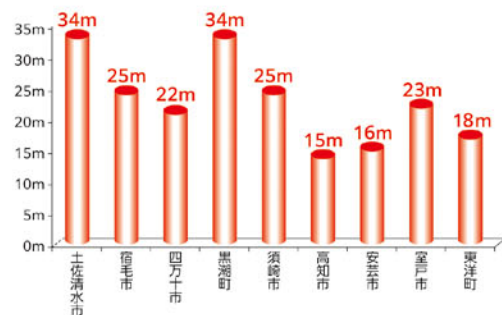
● 津波により唯一の幹線道路である国道が寸断

県東西を結ぶ幹線道路は、海岸線に沿って走る国道55号、56号しかありません。代替道路となる高規格道路には未連結区間（ミッシングリンク）が残るため、津波によって、**唯一の国道が寸断されると地域全体が孤立**してしまいます。



● 大津波が各地に襲来

○ 最大津波高



○ 浸水面積



※ 出典：(R7.3.31) 南海トラフ地震巨大地震モデル被害想定手法検討会地震モデル報告書
 ※ 基本的な検討ケース(計5ケース)とその他派生的な検討ケース(計6ケース)の合計11ケースのうち、最大値を示す。(最大津波高・浸水面積)

● 長期浸水により都市機能が麻痺

地震発生とともに県都高知市では、2mの地盤沈下が発生し、市街地全域が約2,800haにわたって水没し、約13万人が避難を余儀なくされます。

長期浸水区域の早期解消に向け、関係機関と連携して止水・排水対策等の検討を進めています。

昭和南海地震でも高知市内は浸水



・五台山より市内を望む(下図参照) 出典:南海トラフ地震に備えちよき(R5.3月:南海トラフ地震対策課)

高知市中心部付近 長期浸水予想図

